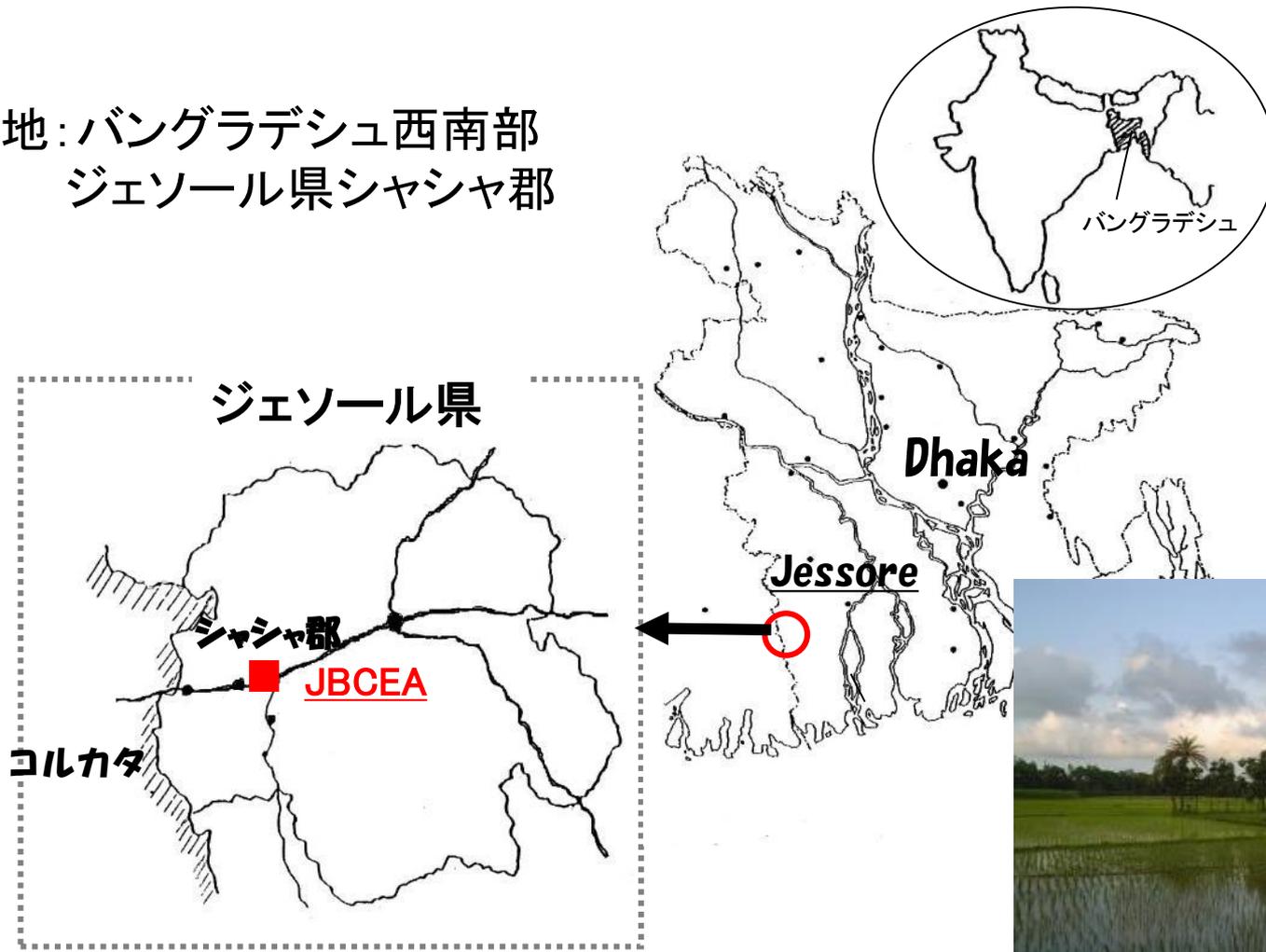


# NPO法人日本・ Bangladesh 文化交流会

Japan-Bangladesh Cultural Exchange Association (JBCEA)

活動地： Bangladesh 西南部  
ジェソール県シャシャ郡



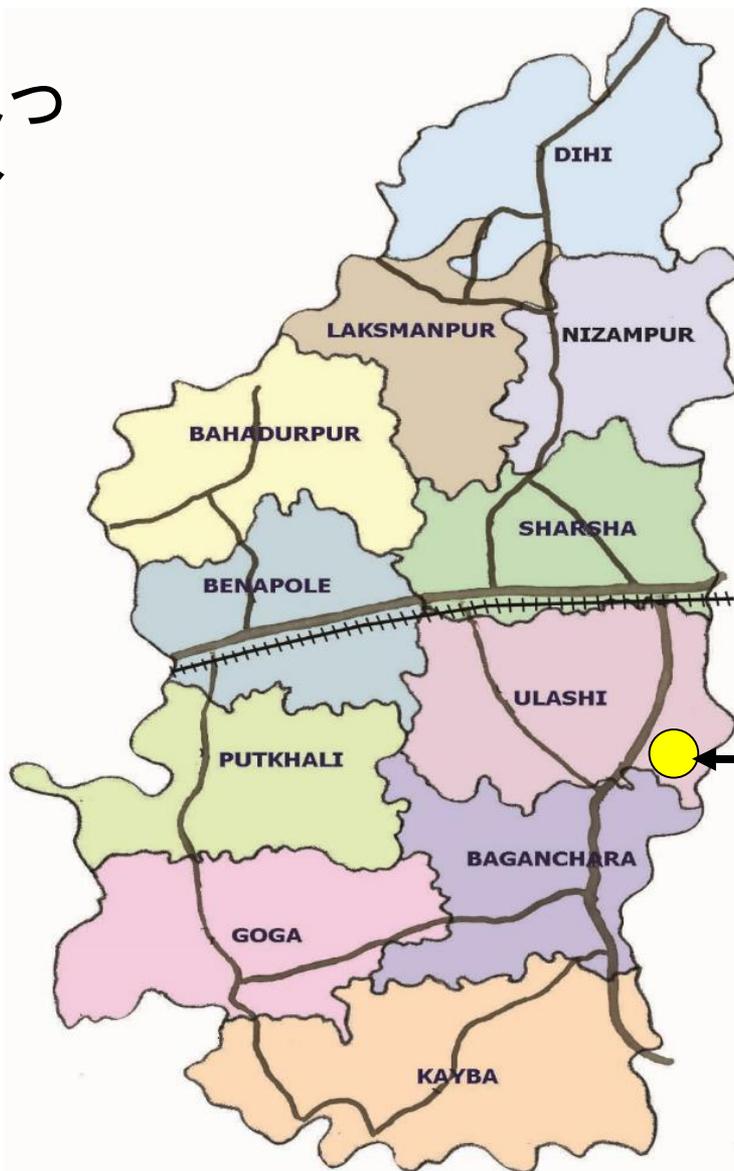
日本・ Bangladesh 文化交流会は、 Bangladesh 農村で活動した青年海外協力隊有志が中心となり1996年にNGOとして設立しました。農村に暮らす人々の生活向上をめざして学校給食、大豆普及、刺しゅう製作、人材開発のプログラムを行っています。

# 地域住民の参加によって 持続可能な学校給 食モデルづくり

## シャシャ郡地図

人口34万人

公立小学校124校(2015年)



**Jadunathpur**  
小学校

都市部の経済成長が進むバングラデシュですが、農村との格差はますます大きくなっています。農村の子どもたちに多い栄養不足を改善するために、私たちは2010年から学校給食に取り組んでいます。日本からの援助がなくても、地域住民の協力によって持続する学校給食モデルをめざして支援しています。

# 2015年に開始

意欲あるジヨドナットプール村を選んで給食開始2015年1月



学校の前に新しく作った調理室



2015年1月5日給食開始



学校の前に菜園を作り、食材を栽培



学校給食オープニングセレモニー

学校給食に意欲的だったジヨドナットプール小学校を選んで、住民と一緒に相談しながら調理室や学校菜園を作りました。調理員を選定し、トレーニングを実施し、2015年1月から学校給食を始めました。オープニングセレモニーでは、保護者や地域住民に、子どもたちの成長のため協力して給食を継続していきましようと呼びかけました。

# 給食の調理

調理員1人＋ボランティア2人

140人分の材料を測って、  
洗う・切る、調理、配膳、片付け

給食開始から、保護者は  
児童1人につき2～3キロの米を提供



大豆ケチュリおいしい！皿は自宅から持参



140人分の野菜など(お米以外)



薪で調理します

給食のメニューは大豆ケチュリ(野菜入りおじや)、大豆入り野菜カレー、豆乳と大豆パンの3種類。高価な肉魚卵の代わりに、大豆を使っています。児童の母親1人を調理員として雇い、2人のボランティアが調理に協力します。電気・ガス・水道がなくても伝統的な仕方でおいしい給食を調理しています。保護者は児童1人につき米2～3キロを提供します。

# 給食の様子

## 二部制の小学校で

- ・プレ・1年・2年は午前授業後に給食
- ・3年・4年・5年は午後授業の合間に給食

上級生が低学年を手伝い  
給食を配膳、手押しポンプで手洗い



学校が不足しているので、バングラデシュでは公立小学校は午前中は低学年、午後は高学年と2部制で授業をします。それに合わせて給食の時間があります。高学年の児童が低学年のお手伝いをしています。手を洗うのにも、手押しポンプが1本なので、1列に並んで順番を待ちます。高学年の児童に水を出してもらいながら手を洗います。

# 学校給食実行委員会が運営実施

## 実行委員メンバーが7つの係を分担



放課後小学校で毎月ミーティング

- ・保護者の米集め
- ・学校菜園
- ・地域から寄付集め
- ・調理の監督と手伝い
- ・食材の購入
- ・会計
- ・会議の記録



カボチャの草取りをする学校菜園係



村の雑貨屋でスパイスを購入



給食の会計を確認しながら指導

学校給食の運営は、保護者と地域住民から選んだ学校給食実行委員会が行っています。毎月のミーティングで各係の報告を聞きあい、保護者のお米や地域の寄付が集まっているか、野菜の購入は予定通り行われているか、衛生の問題はないか、野菜栽培は予定通りか、会計の収支も確認しあって進めています。

## 2018キックオフミーティング

子どもたちの給食のため  
力を合わせてがんばろう！



JBCEA事務所のトレーニングルームにて



係ごとに分かれて話し合い  
2018年度の計画を作る

2016年、2017年ぐらんのご支援をいただいて、学校給食実行委員会が給食を実践する中で運営の経験を積んできました。2015年給食が始まった年は、給食経費の3割、2016年は5割、2017年は、7割を地域で負担する目標を定め、皆で力を合わせて着実に達成してきました。2018年は目標は10割です。学校給食実行委員の皆さんが、無理なく子どもたちの健康のためにボランティアで学校給食を支えていけるように、地域の人々への啓発活動など応援しています。

# 地域住民の協力



スペシャル給食の調理は、近くの母親が協力



新しい畑を借りてカボチャを栽培し、給食に寄付



苗や種を配り、家庭菜園で作った野菜を寄付



子どもたちの体格検査に母親が協力

学校給食の資金を作るために、学校給食実行委員会で近くの畑を借りてカボチャやジュートなどの換金作物栽培、地区ごとに児童の母親グループを作り家庭菜園の野菜寄贈を呼びかけるなど、新しい動きが始まっています。子どもたちにおいしい給食を食べてもらいたいと、母親グループが実施したスペシャル給食(卵入り)に子どもたちが大喜び。

# 学校給食ハッピーデーで笑顔の1日



背の高さでグループ分けして競技。ハチマキが目印



普段は外に出ないお母さんたちも、椅子取りで大笑い



お父さんたちの綱引きは本気の1回勝負



練習したダンスを披露、校舎の屋根まで観客がいます

2018年3月学校給食ハッピーデー(運動会)は、学校給食のおかげで子どもたちが元気に成長している姿を保護者と関係者に見てもらうために開催しました。Tシャツの赤と緑は Bangladesh の国旗の色。母親は椅子取りゲーム、父親は綱引きで大いに盛り上がりました。ダンスや歌の披露もあり、皆が笑顔の1日でした。この催しによって地域の理解や協力が増えました。学校給食のモデルが、周辺地域に広がって、子どもたちの笑顔が広がることを願っています。

ধন্যবাদ

(ありがとう)